



**GÜRZENICH  
ORCHESTER  
KÖLN**

# **GÜRZENICH ORCHESTER KÖLN**

**Sakari Oramo, Conductor**

Japan Tour 2025

**ケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団**

指揮: **サカリ・オラモ**

2025年 日本公演

人のいるところには  
夢がある。



**JAPAN ARTS**

ケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団 指揮: サカリ・オラモ 2025年 日本公演

Gürzenich Orchester Köln Sakari Oramo, Conductor Japan Tour 2025

GÜRZENICH  
ORCHESTER  
KÖLN

2.10 東京  
サントリーホール

日 19:00 February 10 Mon. 19:00 Tokyo Suntory Hall

シューマン: ピアノ協奏曲 イ短調 Op.54 [ピアノ: 藤田真央]

R. Schumann: Piano Concerto in A minor, Op.54 [Piano: Mao Fujita]

第1楽章: アレグロ・アフエットゥオーソ

1st Mov.: Allegro affettuoso

第2楽章: インテルメッツォ、アンダンティーノ・グラツィオーソ

2nd Mov.: Intermezzo. Andantino grazioso

第3楽章: アレグロ・ヴィヴァーチェ

3rd Mov.: Allegro vivace

マーラー: 交響曲第5番 嬰ハ短調

G. Mahler: Symphony No.5 in C-sharp minor

第1楽章: 葬送行進曲、正確な歩みで、厳格に、  
葬列のように

1st Mov.: Trauermarsch. In gemessenem Schritt, Streng,  
Wie ein Kondukt

第2楽章: 嵐のような動きで、より激しく

2nd Mov.: Stürmisch bewegt. Mit grösster Vehemenz

第3楽章: スケルツォ、力強く、速すぎずに

3rd Mov.: Scherzo. Kräftig, nicht zu schnell

第4楽章: アダージェット、非常に遅く

4th Mov.: Adagietto. Sehr langsam

第5楽章: ロンド=フィナーレ、アレグロ

5th Mov.: Rondo-Finale. Allegro

2.12 東京  
サントリーホール

水 19:00 February 12 Wed. 19:00 Tokyo Suntory Hall

ウェーバー: 歌劇「オベロン」序曲 J.306

C. M. v. Weber: "Oberon" Overture, J.306

ブルッフ: ヴァイオリン協奏曲第1番 ト短調 Op.26 [ヴァイオリン: 諏訪内晶子]

M. Bruch: Violin Concerto No.1 in G minor, Op.26 [Violin: Akiko Suwanai]

第1楽章: 前奏曲、アレグロ・モデラート

1st Mov.: Vorspiel. Allegro moderato

第2楽章: アダージェット

2nd Mov.: Adagio

第3楽章: フィナーレ、アレグロ・エネルジコ

3rd Mov.: Finale. Allegro energico

ベートーヴェン: 交響曲第7番 イ長調 Op.92

L. v. Beethoven: Symphony No.7 in A major, Op.92

第1楽章: ポーコ・ソステヌートー ヴィヴァーチェ

1st Mov.: Poco sostenuto - Vivace

第2楽章: アレグレット

2nd Mov.: Allegretto

第3楽章: スケルツォ、プレスト

3rd Mov.: Scherzo. Presto

第4楽章: アレグロ・コン・ブリオ

4th Mov.: Allegro con brío

2.16 横浜  
横浜みなとみらいホール

日 14:00 February 16 Sun. 14:00 Yokohama Yokohama Minato Mirai Hall

ウェーバー: 歌劇「オベロン」序曲 J.306

C. M. v. Weber: "Oberon" Overture, J.306

モーツァルト: ピアノ協奏曲第23番 イ長調 K.488 [ピアノ: 藤田真央]

W. A. Mozart: Piano Concerto No.23 in A major, K.488 [Piano: Mao Fujita]

第1楽章: アレグロ

1st Mov.: Allegro

第2楽章: アダージェット

2nd Mov.: Adagio

第3楽章: アレグロ・アッサイ

3rd Mov.: Allegro assai

ベートーヴェン: 交響曲第7番 イ長調 Op.92

L. v. Beethoven: Symphony No.7 in A major, Op.92

第1楽章: ポーコ・ソステヌートー ヴィヴァーチェ

1st Mov.: Poco sostenuto - Vivace

第2楽章: アレグレット

2nd Mov.: Allegretto

第3楽章: スケルツォ、プレスト

3rd Mov.: Scherzo. Presto

第4楽章: アレグロ・コン・ブリオ

4th Mov.: Allegro con brío

主催: ジャパン・アーツ

後援: ドイツ連邦共和国大使館

協力: 横浜みなとみらいホール[(公財)横浜市芸術文化振興財団](横浜公演)

ソニー・ミュージック ジャパン インターナショナル、ユニバーサル ミュージック



サカリ・オラモ指揮ケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団 2025年日本公演

2月9日(日) 所沢 所沢市文化センター ミューズ アークホール 主催:(公財)所沢市文化振興事業団 ☆

2月10日(月) 東京 サントリーホール 主催: ジャパン・アーツ ☆

2月11日(火・祝) 大阪 ザ・シンフォニーホール 主催: ザ・シンフォニーホール ★

2月12日(水) 東京 サントリーホール 主催: ジャパン・アーツ ★

2月13日(木) 東京 東京オペラシティコンサートホール 主催:(公財)東京オペラシティ文化財団 ☆

2月15日(土) 豊田 豊田市コンサートホール 主催:(公財)豊田市文化振興財団、豊田市 ★

2月16日(日) 横浜 横浜みなとみらいホール 主催: ジャパン・アーツ 協力: 横浜みなとみらいホール[(公財)横浜市芸術文化振興財団] ☆

☆藤田真央 ★諏訪内晶子

サカリ・オラモ (指揮)

Sakari Oramo, Conductor

Sakari  
Oramo



© Benjamin Ealovega

サカリ・オラモは、BBC交響楽団の首席指揮者、ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団の桂冠指揮者、フィンランド放送交響楽団の名誉指揮者を務め、2025/26年シーズンからケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団のアーティスティック・パートナーに就任する。オラモの演奏は、透明感のある構造的まとまりと、威厳、優雅さ、情熱を兼ね備えている。

2024/25年シーズンは、BBC交響楽団との継続的なコラボレーションに加え、NDRエルプフィルハーモニー管弦楽団、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、フィンランド放送交響楽団に再客演。これまでには、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、シュターツカペレ・ドレスデン、ボストン交響楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、サンタ・チェチェーリア国立アカデミー管弦楽団などの著名なオーケストラに客演している。

フィンランド放送交響楽団のコンサートマスターを経て、バーミンガム市交響楽団の音楽監督(1998-2008)、フィンランド放送交響楽団の首席指揮者(2003-2012)、そして彼が共同設立したフィンランド西海岸のコッコラ・オペラの音楽監督(2004-2018)、ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮

者(2008-2021)を歴任している。

新作や演奏機会の少ない作品を積極的に取り上げており、カルロス・サイモン、カイヤ・サーリアホ、ドーラ・ペヤチェヴィチ、グラジナ・バツェヴィチ、ドリーン・カーウィゼン、グレース・ウィリアムズ等の作品を指揮している。またBBCプロムスに定期的に出演しており、2024年の夏には「ラスト・ナイト・オブ・ザ・プロムス」に加え、ホルストの「雲の使者」、サーリアホの「嵐気楼」、R.シュトラウスの「アルプス交響曲」等を指揮した。

レコーディングも多数残しており、近年の録音には、BBC交響楽団とのペヤチェヴィチのピアノ協奏曲と交響曲、ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団とのラヴェル作品、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団とのルート・ランゴウの交響曲第1番がある。また、バーミンガム市交響楽団とはシベリウスの交響曲全集、ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団とはニールセンとシューマンの交響曲全集を録音し、さまざまなオーケストラとサーリアホやマグヌス・リンドベルイの作品を録音している。

Sakari Oramo



ケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団

Gürzenich Orchester Köln

Gürzenich  
Orchester  
Köln



© Holger Talinski

ケルンに深く根ざしながらも世界に開かれたギュルツェニヒ管弦楽団は、画期的な解釈、革新的なプログラム、そしてコンサートホールを超えた多彩な提供を特徴としている。コンサートとオペラの両方でドイツを代表するオーケストラの一つであり、その音楽作りの歴史の伝統に並ぶ者はない。

ギュルツェニヒ管弦楽団は1827年に「コンサート会社」によって設立されたが、その起源はケルンの中世の音楽習慣にさかのぼる。1888年以来、ギュルツェニヒ管弦楽団は一貫してケルン市のオーケストラであり、各シーズン約50回のコンサートでは、100,000人以上の熱心な音楽ファンをケルン・フィルハーモニーに迎えている。また、ケルン・オペラのオーケストラとして毎シーズン約160公演を行っている。

ギュンター・ヴァントとドミトリー・キタエンコが名誉指揮者に名を連ね、2025/26年シーズンからは、アンドレス・オロスコ=エストラダがギュルツェニヒ・カペルマイスター兼ケルン市の音楽総監督に、サカリ・オラモがアーティスティック・パートナーに就任することが発表された。

ギュルツェニヒ管弦楽団は誇りを持って偉大な過去を振り返り、生ける伝統としてその歴史を伝えるべく意欲的な活動を行っている。ヨハ

ネス・ブラームス、リヒャルト・シュトラウス、グスタフ・マーラーによるロマン派レパートリーの傑出した作品が、同楽団によって初演された。この偉大な遺産は、私たちと指揮者たちにとって、今日の音楽との架け橋を築く動機となっている。

ギュルツェニヒ管弦楽団はあらゆる人々のオーケストラである。クラシックのコンサートホールから躊躇なく飛び出し、社会の真ん中でそこにいる人々に感動を与える。これもまた同楽団の使命のひとつである。高齢者用住宅や幼稚園でのコンサート、ワークショップ、学校公演、ファミリーカードやケルン市民オーケストラ等の提供は、さまざまな団体の音楽に対する情熱を掻き立て、音楽を通して人々の暮らしを豊かにすることを目的としている。GOプラス・ライブストリーム、ポッドキャスト、ビデオによって同楽団はデジタルでも強い存在感を示している。また、複数の賞を獲得したCDにより、世界中のファンがこのケルン市の文化大使としての独自性に触れることが可能となっている。

Gürzenich Orchester Köln



諏訪内 晶子 (ヴァイオリン)

Akiko Suwanai, Violin

Akiko  
Suwanai



© TAKAKI KUMADA

1990年史上最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝。これまでに、小澤征爾、マゼール、デュトワ、サヴァリッシュ、ゲルギエフらの指揮で、ボストン響、フィラデルフィア管、パリ管、ロンドン響、ベルリン・フィルなど国内外の主要オーケストラと共演。BBCプロムス、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン、ルツェルンなどの国際音楽祭にも多数出演。

近年ではゲルギエフ指揮／ロンドン響とのツアー、パリ管とのヨーロッパおよび日本ツアー、チェコ・フィルとの中国ツアーを行い、オスロ・フィル、バンベルク響、デトロイト響、トゥールーズ・キャピトル管とも共演。

現代作曲家作品の紹介も積極的に行い、これまでに、エサ=ベッカ・サロネン作曲「ヴァイオリン協奏曲」の日本初演(2013)、エリック・タンギ作曲「In a Dream」の世界初演およびフランス初演(2013)、キャロル・ベッファ作曲「ヴァイオリン協奏曲-A Floating World-」の世界初演(2014)などに取り組んでいる。

2012年、2015年エリーザベト王妃国際コンクール、2018年、2023年ロン・ティボー国際コンクール、2019年チャイコフスキー国際コンクールヴァイオリン部門審査員。2012年より「国際音楽祭NIPPON」を企画制作し、同音楽祭

の芸術監督を務めている。

レコーディングでは、デッカ・ミュージック・グループとインターナショナル・アーティストとして専属契約を結んでおり、最新作「ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ集」を含む16枚のCDをリリースしている。

桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース修了。文化庁芸術家在外派遣研修生としてジュリアード音楽院本科及びコロンビア大学に学んだ後、同音楽院修士課程修了。国立ベルリン芸術大学でも学び、2021年学術博士課程修了、ドイツ国家演奏家資格取得。

使用楽器は、日本にルーツをもつ米国在住のDr. Ryuji Uenoより長期貸与された1732年製作のガエルネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」。

Akiko Suwanai



藤田 真央 (ピアノ)

Mao Fujita, Piano

Mao  
Fujita



Photo: Johanna Berghorn © Sony Music Entertainment

2017年、弱冠18歳で第27回クララ・ハスキル国際ピアノ・コンクール優勝。併せて「青年批評家賞」「聴衆賞」「現代曲賞」の特別賞を受賞。

2019年チャイコフスキー国際コンクールで第2位を受賞し、審査員や聴衆から熱狂的に支持され世界の注目を集めた。

自然体で奏でられる、繊細かつヴィルトゥオーゾを持ち合わせた唯一無二の美しい音色が高く評価され、次々と世界の檜舞台に招かれる。

ルツェルン音楽祭、ヴェルビエ音楽祭、エディンバラ国際音楽祭、ラ・ロック=ダンテロン国際ピアノ音楽祭、ツィナングリ音楽祭など主要な音楽祭へ定期的に出演。2024年8月、フルシャ指揮／チェコ・フィルハーモニー管弦楽団との共演でBBCプロムスにデビュー。同年10月、アン・デア・ウィーン劇場リニューアル記念コンサートにウィーン交響楽団と出演。11月にはカーネギー・ホールにてホール主催のソロ・リサイタルで再登場。その他、プラハ、ミュンヘン、アムステルダム、ベルリン、ケルン、チューリッヒ、シカゴなどの欧米主要都市でソロ・リサイタルを行う。

また2024/25年シーズンは、カメラータ・ザルツブルクとの欧州ツアーに参加し、フィンランド放送交響楽団、チューリッヒ・トーンハレ管弦

楽団、ケルン・ギェルツェニヒ管弦楽団、フィルハーモニア管弦楽団、ワシントン・ナショナル交響楽団、香港フィルハーモニー管弦楽団などにデビューする。クリストフ・エッセンバッハ、リッカルド・シャイー、アンドリス・ネルソンス、マレク・ヤノフスキ、セミヨン・ビシュコフ、ヴァシリー・ペトレンコ、ペトル・ポペルカといった指揮者たちからの信頼も厚い。

2021年11月、ソニークラシカル・インターナショナルと専属レコーディングのマルチアルバム契約を締結し、2022年10月には「モーツァルト：ピアノ・ソナタ全曲集」をリリース。このアルバムは、ドイツのクラシック音楽界で最も権威のある賞のひとつ、オーパス・クラシック賞2023にてYoung Artist of the Yearに選出。2024年9月に「72 Preludes ショパン／スクリャービン／矢代秋雄：24の前奏曲」をリリース。

Mao Fujita



## Program Notes

寺西 基之(音楽評論家) Motoyuki Teranishi

GÜRZENICH  
ORCHESTER  
KÖLN

2月10日 東京

### シューマン:ピアノ協奏曲 イ短調 Op.54

ドイツ・ロマン派を代表する作曲家ロベルト・シューマン(1810-56)の創作上の靈感の大きな源泉は、名ピアニストだった妻クララへの愛だった。この協奏曲もクララが演奏するために作曲されたもので、クララとの結婚の翌年の1841年に作曲された単一楽章の「幻想曲」を第1楽章とし、1845年に改めて後ろに2つの楽章を追加することによって、3楽章の協奏曲となったものである。ピアニスティックな技巧とシンフォニックな有機性を融合させつつ、そこにロマンティックな幻想味を打ち出したいかにもシューマンらしい名作である。

第1楽章(アレグロ・アフエトゥオーソ)は上述のように当初単独で「幻想曲」として書かれた情感豊かなソナタ形式楽章。感情を叩きつけるような冒頭のピアノの激しいパッセージが印象的だ。第2楽章(インテルメッツ、アンダンティーノ・グラツィオーソ)はピアノと管弦楽が対話風に進む題どおりのインテルメッツ(間奏曲)風の楽章で、中間部ではチェロがカンタービレを聴かせる。休みなく続く第3楽章(アレグロ・ヴィヴァーチェ)はソナタ形式のフィナーレで、活力に満ちた展開を繰り広げる。

### マーラー:交響曲第5番 嬰ハ短調

交響曲第2~4番で従来の交響曲の概念から外れた声楽入りの様式を追求したグスタフ・マーラー(1860-1911)は、1901年から翌年にかけて書かれたこの第5番で純器楽の交響曲に再帰する。不協和音を多用した近代的な和声、ロマンティックな書法、複雑な対位法などの様々な語法を駆使し、闘争的な主題、俗っぽい素材、甘美な旋律、コラールなど、互いに相いれない諸要素をコラージュ的手法で織り込んで、不安定に揺れ動く精神世界を映し出しながら、全体を3部全5楽章からなる“闘争→勝利”の構図で有機的に纏め上げた大作である。

第1部は、重苦しい葬送行進曲の部分と激しい葛藤を示す劇的な部分が交替する第1楽章(葬送行進曲、正確な歩みで、厳格に、葬列のように)と、そうした闘争がさらなる激烈さを増して繰り広げられるソナタ形式の第2楽章(嵐のような動きで、より激しく)から構成される。第2部に当たる第3楽章(スケルツォ、力強く、速すぎずに)は、一見ワルツ風の明るさのうちに気分が揺れ動くスケルツォで、ホルンが大活躍する。第3部は、まず弦とハープによる憧憬の気分に満ちた緩やかな第4楽章(アダージェット、非常に遅く)が耽美的なひと時を作り上げた後、明るい勝利の第5楽章(ロンド＝フィナーレ、アレグロ)に入る。フガートなどの対位的な書法を活用して前進的に運ばれるこのフィナーレは、第4楽章中間部の旋律も織り込みながらダイナミックに発展、圧倒的な高揚感を生み出していく。

2月12日 東京

### ウェーバー:歌劇「オベロン」序曲 J.306

カール・マリア・フォン・ウェーバー(1786-1826)は1821年に初演された「魔弾の射手」でドイツの国民的なロマン派オペラを確立し、次の「オリアンテ」(1823年初演)でさらにその方向を前進させた。それに続く「オベロン」は彼の最後のオペラ(作曲は1824-26年)となった作品だが、もともとロンドンからの依頼で英語の台本に作曲されただけに、先立つ2作ほどはドイツ色が押し出されていない。しかし妖精を中心とする幻想的な物語をロマン的な書法で描く表現法はウェーバーならではのといえるだろう。今日ではオペラ全曲が上演される機会は少ないが、序曲はこのオペラのエッセンスを凝縮したようなロマンティックな幻想性に満ちた名品で、妖精の世界へ誘うホルンの旋律で始まり、主部はオペラ本編中の旋律を主題とした自由なソナタ形式で運ばれる。

### ブルッフ:ヴァイオリン協奏曲第1番 ト短調 Op.26

ドイツの作曲家マックス・ブルッフ(1838-1920)は多岐にわたるジャンルに作品を多数残し、叙情に満ちたロマン的な作風を特徴とした。彼のそうした特質を端的に示しているのがこのヴァイオリン協奏曲第1番(1864-68)で、情感に満ちた旋律の美しさ、表情豊かな和声、ヴァイオリンという楽器の美質を生かした華麗さといった点で、ドイツ・ロマン派を代表するヴァイオリン協奏曲のひとつに数えられる傑作である。形式的にもロマン派らしい自由な発想が示され、その中で起伏溢れる展開が繰り広げられる。

第1楽章(前奏曲、アレグロ・モデラート)は、ティンパニの弱音と木管の呼びかけを受けてヴァイオリン独奏が最低音から高音に向かって上行するカデンツァ風の序奏に始まる。主部は重音を生かした力強い第1主題と叙情的な第2主題を持つソナタ形式だが、再現部では序奏だけが再現され、そのまま次の楽章へ続く。その第2楽章(アダージェット)はロマンティックな主題で開始され、次第に感情的な高まりを示していく美しい緩徐楽章。第3楽章(アレグロ・エネルジコ)は独奏の重音によった舞曲風の第1主題と高らかに奏される第2主題によって華麗な発展が織り成される明るいソナタ形式のフィナーレである。

### ベートーヴェン:交響曲第7番 イ長調 Op.92

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)が中期から後期への過渡期にあたる1811年から翌12年にかけて作曲したこの作品は、中期の傑作である第5番「運命」と第6番「田園」から約4年のブランクを経て生み出された交響曲である。この曲の最大の特徴は、一定のリズム・パター

ンの反復を効果的に用い、リズムの持つ根源的な生命力や舞踏的な躍動感を存分に生かしている点である。終楽章におけるリズムの高揚感などは19世紀のロックンロールとでもいえるもので、リズムの持つ表現力に着目してひとつの大交響曲を作り上げてしまうベートーヴェンの才腕は見事というほかない。

第1楽章(ポーコ・ソステヌート〜ヴィヴァーチェ)は充実した序奏の後、軽快な付点リズムを生かした主部が生き生きした発展を繰り返す。第2楽章(アレグレット)はタータ・ターターという単純なリズムの反復を用いつつ、その中で表情の変化に富む展開が織り成されていく。第3楽章(スケルツォ、プレスト)では躍動的なスケルツォと粘るようなリズムのトリオが交替する。第4楽章(アレグロ・コン・プリオ)は、力感溢れるリズムでもって熱狂的に推進するフィナーレである。

### 2月16日 横浜

#### ウェーバー: 歌劇「オベロン」序曲 J.306

\*2月12日の項を参照

#### モーツァルト: ピアノ協奏曲第23番 イ長調 K.488

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-91)は1781年にウィーンに移住した。それまでのザルツブルクでの宮仕えとは異なり、彼はここで自立したフリーの音楽家としての新しい生活を送ることとなる。当時の彼にとって、収入の中心となったのがピアニストとしての活動だった。特に自作自演による予約演奏会は大きな人気を呼び、モーツァルトはそうした演奏会のために数々のピアノ協奏曲を作曲する。このイ長調の協奏曲も1786年春の予約演奏会のために書かれたものである。引き続いて完成されたピアノ協奏曲第24番ハ短調K.491の暗く激しいパトスの世界とは対照的に、このイ長調の協奏曲は親密で優美な特質を持っている。しかしその中でも明と暗の微妙な表情の綾が織り成される点がモーツァルトらしい。

第1楽章(アレグロ)は協奏風ソナタ形式による流麗優美な楽章。展開部では新しい主題も現れ、それは再現部の終りにも主調で再現される。第2楽章(アダージョ)はシチリアーノ風のメランコリックな主題による短調の緩徐楽章。第3楽章(アレグロ・アッサイ)は活気溢れる軽快なロンドのフィナーレで、華やかに動き回るピアノがオーケストラと掛け合いながら運ばれる。

#### ベートーヴェン: 交響曲第7番 イ長調 Op.92

\*2月12日の項を参照



# Gürzenich Orchester Köln

## Sakari Oramo, Conductor

Japan Tour 2025

### 1st Violin

Natalie Chee  
Jordan Ofiesh

Arata Yumi  
Dylan Naylor  
Rose Kaufmann  
Adelheid Neumayer-Goosses  
Demetrius Polyzoides  
Elisabeth Polyzoides  
Petra Hiemeyer  
Anna Kipriyanova  
Juta Ōunapuu-Mocanita  
Toshiko Tamayo  
Nikolai Amann  
Evgenia Sverdlova  
Marie-Noëlle Richard  
Isabell Mengler  
Sophia Eschenburg

### 2nd Violin

Sergey Khvorostukhin  
Kaoru Oe  
Marie Šparovec  
Miyeon Lee  
Joanna Becker  
Nathalie Streichardt  
Hae-jin Lee  
Anna van der Merwe  
Ayane Okabe  
Marina Hermida Rodríguez  
Elisabeth Gebhardt  
Ernst Jan Vos  
Kiki Shibayama  
Alexandra Arba\*  
Sara Molina Castellote\*  
Marina Geldsetzer\*\*

### Viola

Nathan Braude  
Mischa Pfeiffer  
Martina Horejsi-Kiefer  
Bruno Toebrock  
Vincent Royer  
Annegret Klingel  
Antje Kaufmann  
Eva-Maria Wilms  
Maria Scheid  
Sarah Aeschbach  
Felix Weischedel

Rica Schultes  
Hayasa Tanaka

### Violoncello

Bonian Tian  
Joachim Griesheimer  
Jee-Hye Bae  
Angela Chang  
Georg Heimbach  
Sylvia Borg-Bujanowski  
Katharina Apel-Hülshoff  
Julian Bachmann  
Maialen Eguiazabal Arruabarrena  
Michael Bosch  
Jonathan Drißner

### Doublebass

Johannes Seidl  
Christian Geldsetzer  
Ertuğ Torun  
Konstantin Krell  
Jason Witjas-Evans  
Jon Mikel Martínez Valgañón  
Daniel López Giménez  
Pavel Hudec  
Zhilong Liu\*

### Harp

Antonia Schreiber

### Flute

Alja Velkaverh-Roskams  
Paolo Ferraris  
Rossana De Jesús Valente  
Priska Rauh  
Francesca d'Odorico\*

### Oboe

Tom Owen  
Sebastian Poyault  
Ikuko Homma  
Margarida Martins\*

### Clarinet

Oliver Schwarz  
Andreas Oberaigner  
Tino Plener  
Thomas Adamsky

### Bassoon

Thomas Jedamzik  
Miriam Kofler  
Miriam Kops  
Pauline Trottin\*

### Horn

Egon Hellrung  
Achille Fait  
Johannes Schuster  
Willy Bessems  
Andreas Jakobs  
Jens Kreuter  
Jörn Köster

### Trumpet

Bruno Feldkircher  
Martin Angerer\*\*  
Pierre Evano  
Benedikt Neumann  
Klaus v. d. Weiden

### Trombone

Aaron Außenhofer-Stilz  
Markus Lenzing  
Carsten Luz  
Christoph Schwarz

### Tuba

Karl-Heinz Glöckner

### Timpani

Robert Schäfer  
Peter Fleckenstein

### Percussion

Alexander Schubert  
Uwe Mattes  
Christoph Baumgartner  
Lukas Schrod

\*= Orchestra Academy

\*\*= Guests



## ARTIST SUPPORT

【アーティストサポート】へ、多くの皆様からお気持ちをお寄せいただきましたことに、心より感謝申し上げます。寄せられたご支援は、アーティストの様々な活動に幅広く使わせていただいております。

「人のいるところには夢がある」2026年には創業50周年を迎えるジャパン・アーツの理念です。

どんな時代においても、音楽・芸術から生まれる感動は、人々に夢・希望・生きる力を与えてくれます。

これまでの活動レポートは、ジャパン・アーツのホームページに掲載しておりますので、どうぞご覧ください。

今年も引き続き変わらぬご支援をどうぞよろしく申し上げます。



アーティストサポートの詳細はこちらをご覧ください。

### 2024年度ご支援いただいた皆様

#### <2024年度 年間サポート>

朝妻 幸雄 F.A. 井上 豊 岩村 和央 上原 啓子 上村 憲裕 M.U. K.O. S.O. 小田島 容子  
片山 由美子 H.K. K.K. 栗田 美知子 R.K. 新貝 康司 M.S. M.T. R.T. A.D. 田中 治郎 F.T.  
トゥルーラブ 真智子 トゥルーラブ 真凛 K.N. E.N. 兒子 弥生 S.N. 長谷川 智子 T.H. 樋口 美枝子  
響城 れい M.H. 平山 美由紀 藤野 盾臣 松尾 芳樹 真野 美千代 三木谷 晴子 J.M. M.M.

株式会社青林堂 株式会社セキド 三井住友カード株式会社

株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント 株式会社ロジックアンドエモーション

ライフプラン株式会社 Heart of the Earth株式会社 きづきアセット株式会社 (匿名希望 27名)

#### <2024年度 福間洸太郎に「花を贈ろう！」>

あかほり みお 厚見 有紀 F.A. J.A. 池田 惇子 石黒 裕康 石崎 典子 井住 智子 R.I. A.I.  
岩塚 究 K.U. M.E. 猿渡 かおり M.E. 大畑 篤子 大原 志津子 大原 みずほ 小山田 美代子  
カッキー 柿 信子 柏 香織 T.K. 川島 理絵 駒場 雅世 A.K. 桜猫 桜井 桂子 佐々木 珠乃 佐野 孝枝  
A.S. N.S. 塩崎 勢子 W.S. A.S. 新里 真美子 進導 幸太郎 鈴木 志保里 N.S. 早田 利江 高島 秀子  
鷹巣 綾子 高田 恵子 N.T. 武田 真子 武田 佳美 辻田 奈津 土屋 麻起 長江 雅子 中嶋 妙子 Y.N.  
中島 葉子 S.N. 中村 祥子 A.N. K.N. 野口 由美 H.N. 林 順子 平井 聖香 平山 美由紀 深堀 悦代  
S.F. 伏見 由加 A.H. R.M. K.M. 三浦 祐子 三浦 洋子 村田 恵美 村山 幸恵 山口 恵美

依田 晴美 (匿名希望 24名)

#### <2024年 ウィーン少年合唱団 オフタイム・サポート>

井口 和美 K.K. Rimiko M.H. M.M. 真野 美千代 水足 久美子 水足 秀一郎 ロロコミ・リリコミ  
(匿名希望 12名)

#### <2024年 ウィーン少年合唱団 ツアー・サポート>

井口 和美 T.O. K.K. Rimiko M.T. 平山 美由紀 細沼 康子 M.M. 真野 美千代 村瀬 治男  
ロロコミ・リリコミ (匿名希望 11名)

2025年1月26日現在 敬称略

#### お知らせ

2025年3月3日より2025年度年間サポートの受付を開始予定です。

また新プロジェクトも発表！第1弾は、あの天使の歌声「ウィーン少年合唱団」日本ツアーサポートプロジェクトです。詳細が決まり次第、ジャパン・アーツの公式WEBサイトおよび公演チラシ挟み込みの申込用紙等でご案内いたします。

ご支援についての詳しい内容は、株式会社ジャパン・アーツ  
お気軽にお問い合わせください。アーティストサポート係 TEL.03-3499-7720(平日11:00~17:00 年末年始を除く)